

思はざる病となりぬ沖繩を

たづねて果さむつとめありしを

(昭和天皇 御製)

皆様もすでにご存知であろうが、今年は大東亜戦争の終結から七十年という節目の年である。この節目の年に天皇皇后両陛下のパラオ共和国への慰霊の旅が実現した。

パラオ共和国は第一次世界大戦後に日本の委任統治領となり、昭和二十年までの三十一年間、日本の委任統治下で自治が認められていた。親日国として知られるパラオであるが、その象徴が国旗だ。独立の際に島民の応募により日本の「日の丸」に似た、青地に黄色の丸を描いた「月の丸」が選ばれた。青地は海を黄色は月を表しているという。月は太陽の光によって輝く。つまり日本によってパラオは輝くという事であり、日本への、命を懸けて戦った兵士たちへの敬愛の念の表れなのだ。激戦の地であったペリリュー島を訪れた天皇皇后両陛下は、深々と頭を下げ、国の為に命を懸けて戦った方々を慰められた。そんな陛下のお姿を拝見すると、日本人であることをうれしく思わずにはいられない。南洋の地に散った英霊も浮かべられることであろう。

そんなペリリュー島で昨年九月十五日、ペリリュー島への米軍上陸七十年を迎え、現地の小学校では「ペリリュー戦七十周年日米合同記念式典」が催された。その際にペリリュー戦を戦った日米両国の二人の元軍人が笑顔で抱き合い、会場は拍手で包まれたという。また、先月安倍首相がアメリカの上下両院合同会議で、日本の首相として初めて演説を行ったわけであるが、この演説の中で硫黄島の戦いについて触れた。傍聴席には硫黄島の戦いで指揮を執った、栗林大将の孫である新藤衆院議員と元米海兵隊員であるスノーデン氏がおり、立ち上がって握手を交わした。この二つのエピソードは、日本とアメリカがこの七十年間、互いに前を向いて歩いてきた証拠ではないか。米国議会での演説でさえ謝罪を要求するという、お門違いな中国、韓国とも七十年という節目を機に建設的な話ができるようになってほしいものである。

一方で日本人自身が、この節目を機に、日本について改めて見つめ直すことも必要である。

昨年の六月、群馬県の富岡製糸場が世界文化遺産に登録された。日本では、平成五年に法隆寺を中心とした仏教建造物が初めて世界遺産に登録されてから、十八番目の世界遺産登録となった。また、一昨年には「和食」が、昨年は「和紙」の技術がユネスコ無形文化遺産に登録された。こちらは調べてみると「歌舞伎」をはじめ二十二件が登録されているという。その多くが踊りであるのはなんとも興味深い。古来、踊りとは神々との交流のツールであるとされ、日本人がいかに生きる上で「神」という存在を意識していたかが窺える。これらの世界遺産や無形文化遺産は、東京五輪が開催される平成三十二年までに、訪日外国人旅行者数二五〇〇万人という観光立国を目指す日本にとってかけがえのない財産であることは間違いない。そんな財産に傷をつけるという行為にはいかなる理由があるかと許せることでない。一〇〇〇年以上先人たちが守ってきた寺社に油をまくという暴徒が一日も早く逮捕されることを願う。

また、今年度から「日本遺産」というものが登録されてい

ることはご存知であろうか。これもやはり観光立国を目指す国の施策のひとつなのであるが、これがなかなかユニークなのでご紹介したい。

世界遺産にしる、無形文化遺産にしる、文化財を認定の対象にするのに対して、この日本遺産は文化財そのものを認定の対象としていないのである。ではいったい何を対象にしているのか。それは「ストーリー」、つまり「物語」である。文化庁のHPに認定の対象を紹介しているが、簡単にまとめると「歴史的な経緯や地域に根差した文化財を中心としたストーリー」となる。「単に文化財の解説になっていないもの」という付記があるのも、この日本遺産のミソであろう。

それではいったい、どのような「物語」が登録されているのであるのか。平成二十七年年度の日本遺産には八十三件が申請され、その内の十八件が登録された。栃木県でも足利市の足利学校が「近世日本の教育遺産群」学ぶ心・礼節の本源」というストーリーの一部として登録されている。近代的な教育制度を導入する以前から多くの庶民が読み書きや算術、そして礼節を身に付けていたことが近代化の原動力となり、教育と礼節を重んじる国民性は今も受け継がれている、というストーリーである。また、お隣の群馬県では「かかあ天下」ぐんまの絹物語」という近代日本の経済を支えた女性たちの物語が遺産として登録されている。他にも文化庁のHPにストーリーの概要が載っているのでは是非ともご覧いただきたい。改めて日本には素晴らしい文化・伝統があることを誇りに感じることであろう。

ペリリュー島や硫黄島の戦いで、先人たちが命を懸けて守ろうとしたものはこの文化・伝統だったのではないだろうか。先人たちが守ったものを次の世代に繋いでいくのは、今を生きる我々の責務なのである。

行事予定

- ◎六月七日(日) 正午より 月例祭
- ◎七月五日(日) 正午より 月例祭
- ◎七月十九日(日) 正午より 御山立祈願祭
- ◎七月二十五日(土) ～二十六日(日) 御山登拝

※御嶽山登拝の日程等詳細につきましては、別紙をご参照下さい。

奉納御礼

この度、小糸一正様より二台の掃除機をご奉納いただきました。この場を借りて皆様にご報告するとともに、改めて厚く御礼申し上げます。一層教会の整備に努めてまいります。

お知らせ

この度、教会のフェイスブックページを作成いたしました。一人でも多くの方に知っていただくために祭典の様子などを掲載していきます。「妙心教会 フェイスブック」と検索していただければ見つけられますので、是非ご覧下さい。